

2 地域の魅力を高め、地域への人の流れをつくる

(1) 数値目標

本道への転入超過数を前年より増加させる(R11)(R5 現在:転入超過数 4,608 人)

(2) 基本的方向

本道においては、近年、外国人の転入増加により社会増が続いているものの、依然として若年層を中心に転出超過が続いていることから、引き続き、U・Iターン就職や地域おこし協力隊の確保などの移住・定住の促進はもとより、外国人材の受入・拡大と共生、北海道独自の歴史・文化などの地域の魅力を高め発信し、関係人口の創出・拡大や二地域居住の促進を図るとともに、交通ネットワークの維持に努めつつ、最大限活用することにより地域への人の流れをつくる。

(3) 主な施策

① 移住・定住の促進

■ 官民連携による移住・定住の取組推進	重要業績評価指標 (KPI)
移住に関するワンストップ相談窓口である「ふるさと移住定住推進センター（通称：どさんこ交流テラス）」の運営により、個々のニーズに応じたきめ細かな相談体制を確保するほか、「しごと」「住まい」「暮らし」の情報の一元的な発信や若年層・子育て世帯を中心とした幅広い層への移住プロモーションの展開を図る。	移住相談件数（延べ件数） 15,540 件(R4) → 19,950 件(R11)
全国各地の移住希望者のニーズを的確に捉えながら、全国主要都市での移住フェア・相談会の開催やオンラインによる相談・セミナー等を行うなど、関係部局、市町村や関係団体等と連携しながら、あらゆる機会を活用して移住・定住の促進を図る。	
「空き家等対策に関する取組方針」に基づき「北海道空き家情報バンク」を運営し、「移住情報ポータルサイト」との相互リンクにより、物件情報と移住情報を効果的に提供する。	

■ 地域の産業を支える人材を確保する U・I ターン就職の促進	重要業績評価指標 (KPI)
<p>北海道ふるさと移住定住推進センター（どさんこ交流テラス）と連携した U・I ターン就職希望者の相談対応や、U・I ターンフェアの国との共催などの取組を進め、道内への U・I ターン就職を促進する。</p>	
<p>道外学生の道内就職を促進するため、道外大学就職担当者に道内企業を紹介する説明会を開催するほか、大学主催の就職相談会へ参加し学生に就職情報を提供するなど、大学との連携を強化する。</p>	<p>U・I・J ターン新規就業支援事業など、道の施策により道内企業に就業した人数 51 人(H30) → 291 人(R11)</p>
<p>東京圏からの U・I・J ターンによる新規就業を促進するため、移住支援金を交付する市町村に対して補助するとともに、首都圏の移住相談窓口、就職相談会等を活用した周知や移住支援金対象法人を掲載するマッチングサイトを運営する。</p>	

■ 道内の地域おこし協力隊員の確保や任期後の定住に向けた取組支援	重要業績評価指標 (KPI)
<p>地域活性化において重要な存在となっている地域おこし協力隊の更なる確保・定住を図るため、隊員の募集・任期中・任期終了後の各段階において、隊員の活動や市町村の制度活用を支援する。</p>	<p>地域おこし協力隊の隊員数 943 人(R4) → 1,600 人(R14)</p>

② 外国人材の受入拡大と共生

■ 外国人材の受入れ	重要業績評価指標 (KPI)
<p>外国人が本道で安心して働き、暮らすことができる環境づくりを進めるとともに、その魅力を国内外へ多言語で情報発信するほか、道内企業へ外国人材の採用事例の普及や、企業を対象とした外国人材セミナー等を開催し、道内企業への就職を促進する。</p>	<p>外国人居住者数 56,485 人(R5) → (検討中)</p>

■ 多文化共生社会の推進	重要業績評価指標 (KPI)
道内に在住する外国人から寄せられる様々な相談に多言語で対応する「北海道外国人相談センター」を運営し、生活者としての外国人を支援する。	外国人居住者数 56,485 人(R5) → (検討中)
道内に在住する外国人が居住地や環境に関わらず、必要に応じて生活のために必要な日本語を学ぶことができる環境づくりを推進する。	
外国人住民が国籍を問わず地域社会の一員として活躍し、安心して暮らすことができる取組を推進する。	

③ 関係人口の創出・拡大、二地域居住の促進

■ 北海道に興味・関心のある方との継続的な関係構築	重要業績評価指標 (KPI)
北海道との関わりのきっかけの提供や北海道との関わりを楽しむ方とのつながりを維持・強化するため、オンラインを活用した交流イベントの開催や北海道での暮らしや仕事等の情報について SNS 等を通じて発信するほか、ほっかいどう応援団会議のネットワークなども活用し、関係人口の創出・拡大を図る。	関係人口創出・拡大のための首都圏等での交流イベント参加者数 752 人(R5) → 940 人(R11)
地方への関心の高まりやテレワーク等の新たな働き方の定着といった人々の行動変容を的確に捉え、市町村、関係団体や企業等との連携のもと、道内へのワーケーションや二地域居住の推進により、個人の多様なライフスタイルの実現に加えて、地域力を高める関係人口の創出・拡大を図り、将来的な移住や関係人口の増加に繋げていく。	移住相談件数 (延べ件数) 15,540 件(R4) → 19,950 件(R11)

■ 都市と農村の交流の促進	重要業績評価指標 (KPI)
農村を中心とした地域ぐるみの受入体制により国内外の観光需要を取り込む農村ツーリズムを推進し、農村地域の所得向上や交流人口の増加による活性化を図る。	教育旅行における農家等での宿泊者数 3,620 人(R5) → 13,000 人(R9)

■ 北海道への想いを広める広報の展開	重要業績評価指標 (KPI)
北海道の魅力を広く発信するとともに、北海道への愛着を醸成していくため、情報の受け手の視点に立ちながら、地域に密着した情報の発信などによる積極的な広報を展開する。	北海道庁公式 SNS 登録者数 164,482 人(R5) → 185,000 人(R11)

■ 若者の地域に対する愛着醸成	重要業績評価指標 (KPI)
若者の視点による地域づくりや地域に関わる機会の拡充を図るため、大学生のフィールドワークをはじめとする大学等や市町村が連携した取組を推進する。	大学等と連携した取組を行う市町村数 (検討中)

④ 北海道独自の自然・歴史や文化の発信

■ 自然・歴史や文化の発信による地域の魅力向上	重要業績評価指標 (KPI)
ウポポイをはじめとする関連施設への誘客を促進し、アイヌの人たちとの共生社会の実現に向け、アイヌの人たちの歴史や文化に関する正しい理解を促進する。	「アイヌ民族が先住民族であること」の認知度 86.5%(R6)→ 93.7%(R10)
アイヌ独自の伝統や文化を次世代に継承することができるようその保存・伝承を促進する。	
ユネスコ世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の価値や魅力の発信により適切な保存と活用を図り、地域の賑わいの創出に繋げる。	縄文世界遺産認知度 66.0%(R5)→ 80.0%(R15)
北海道開拓の村における歴史的文化資源を活用した人材の育成と観光拠点整備を行い、本道の歴史や文化に触れる機会の充実を図る。	北海道開拓の村入村者数 130,905 人(R5) → 162,400 人(R9)
道民共有の貴重な財産である「赤れんが庁舎」の積極的な活用を図るとともに、文化・観光情報の発信施設として魅力向上を図る。	(検討中)
「むかわ竜」を契機に耳目を集める恐竜・化石のほか、北海道地域等の広域振興にも寄与する日本遺産、ユネスコの世界認定を受けたジオパークなど、歴史・文化・学術的価値の高い地域資源の魅力を活かし、地域の振興を図る。	「北海道恐竜・化石ネットワーク研究会」 構成自治体の関係施設への入込客数 131 千人(R5) →147 千人(R11) ジオパーク構成市町村への観光入込客数 19,409 千人(R5) →22,972 千人(R11) 日本遺産構成市町村への観光入込客数 54,050 千人(R5) →63,223 千人(R11)

■ 地域文化の振興や魅力発信	重要業績評価指標 (KPI)
<p>著名な漫画家を数多く輩出している本道の優位性を活かし、「まんが・アニメ王国ほっかいどう」を内外に大きく発信し、メディア芸術の振興やコンテンツ関連産業の育成を図る。</p>	<p>北のまんが大賞応募作品数 126 作品(R5) → 265 作品(R7)</p>
<p>道内の美術館等が連携・協力し、北海道全体がアートの舞台となる「アートギャラリー北海道」に取り組み、人々が集い、行き交う空間を創出するとともに、広域な北海道において、誰もが気軽に芸術に触れられるよう、道立美術館の「ポータルサイト」により、各美術館等の展覧会の情報や動画を発信する取組を進める。</p>	<p>美術館・博物館のホームページの閲覧者数 212.6 万件(R3) → 274.3 万件(R9)</p>

⑤ スポーツによる地域の振興

■ スポーツを通じた健康で豊かな生活の形成と魅力ある人づくり・地域づくり	重要業績評価指標 (KPI)
<p>誰もが、それぞれの体力や年齢、性別、障がいの有無にかかわらずスポーツに親しむことができる環境づくりに向けて、「する・みる・ささえる・しる」といった多様な形でのスポーツ参画人口の拡大を推進する。</p>	<p>成人の週 1 回以上のスポーツ実施率 62%(R3) → 70%(R9)</p>
<p>合宿誘致希望市町村の競技施設や受入環境について、日・英・仏・露語によりホームページ等で情報を発信するとともに、道内におけるスポーツ合宿や大会の実態状況を把握し、市町村へ還元することによりスポーツ合宿等の誘致に向けた取組を促進する。</p>	<p>地域におけるスポーツコミッション数の増加 19 件(R3) → 34 件(R9)</p>

⑥ 航空ネットワークや北海道新幹線等を活用した新たな人の流れの創出

■ 航空ネットワークの充実・強化	重要業績評価指標 (KPI)
<p>国や関係自治体、航空会社、空港運営事業者と連携し、新千歳空港はもとより、地方空港の航空ネットワークの充実・強化を図るため、新規路線誘致や双方向の需要創出等の取組を進める。</p>	<p>道内空港の国際線利用者数 303 万人(R5) →410 万人以上(R11)</p>
<p>道内航空路線の維持・拡充のため、航空機利用促進や地域振興など、多様な主体の連携による航空需要創出の取組を進める。</p>	<p>道内空港の国内線利用者数 2,571 万人(R5)</p>
<p>空港の受入環境整備や道管理空港の脱炭素化の推進、国に対する空港の機能強化の要請など、道内空港の機能向上に向けた取組を進める。</p>	<p>→ 2,671 万人以上(R11)</p>

■ 北海道新幹線を活用した交流人口の拡大	重要業績評価指標（KPI）
北海道新幹線新函館北斗・札幌間の早期完成に向けた取組を推進する。	渡島管内の観光入込客数 1,160 万人(R5) → 1,371 万人以上(R15)
新幹線駅から道内各所の観光地や主要都市への円滑な移動が可能となるよう、交通ネットワークの充実に資する取組を推進する。	
北海道新幹線の本道経済の活性化に結びつけるため、首都圏をはじめ、北関東や東北地方での PR 活動の実施、東北地域との交流などにより誘客促進を図る。	